

科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」推進事業  
第3期中期計画フォローアップ（令和5年度実績）  
【科学技術イノベーション政策研究センター（SciREXセンター）】

2024.5.17

## 1. 令和5年度における活動の概要

### （総括）

令和5年度において、①人材育成に関し、コアカリキュラム編集委員会の事務局を務め、行政官研修を実施した。②研究・基盤に関し、共進化実現プログラムの運営を文部科学省とともに担当し、プログラムの推進支援等を行った。③共進化に関しては、行政官研修の実施、共進化実現プログラムの運営等に加え、文部科学省内研修と連携したブラウンバッグセミナーの開催、共進化方法論に関する調査研究を実施した。また、④ネットワーキングに関しては、科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」推進事業運営委員会（以下、「運営委員会」という。）を文部科学省とともに計3回開催、各拠点の協力を得たサマーキャンプの実施、SciREXセミナーの開催、政策リエゾンの活用、SciREX事業の活動や成果に関する広報を行った。

### ①人材育成

#### （活動の概要）

- ・コアカリキュラム編集委員会の事務局を務め、その活動を支援した。主な活動は以下のとおり。①編集委員会（2月28日）を開催した。②新規コンテンツの原稿執筆作業を進め、3件をウェブサイト上で公開した。③留学生が活用できるよう、英語翻訳化したコンテンツをウェブサイト上で公開していたが、編集委員会において著者の確認を得るべきとの意見があり著者への確認を進めた。④編集委員会において、前年度に実施した各拠点教育プログラムでの活用等に係る教員、学生へのアンケート結果等を踏まえ改訂方針検討を行った。結果、「政策のための科学」という新たな学際的領域を明確にすることを主目的とし改訂は行わず、検索機能強化と全コンテンツを冊子として取りまとめることでの活用促進を図ることとし、令和6年度以降に具体的に着手することとした。
- ・文部科学省との共催で、他の基盤的研究・人材育成拠点及び関係機関と協力しながら、現役行政官等を対象に「科学技術イノベーション政策のための科学」についての知見や方法論の普及を目的とした行政官研修（講義形式：1月11～12、15日と演習形式：2月9日、2月19日の計21時間）を実施し、行政官等13名が修了した。

#### （KPIの達成状況）

- ・編集委員会 1回（2月28日）、メールベースでの意見照会等 [計画：コアカリキュラム

編集委員会及び同 WG 開催回数：3 回程度]

- ・行政官研修の修了者数：13 名 [計画：行政官研修の履修者数：15 名程度]

## ②研究・基盤

(活動の概要)

- ・共進化実現プログラムの運営を文部科学省とともに担当し、プログラムの推進支援を行った。主な活動は、①共進化実現プログラムの第2フェーズの終了プロジェクト 11 件の成果報告会の開催（6 月 2 日及び 8 日）、②プログラムの第3フェーズの提案募集方法の検討等、③採択されたプロジェクトのキックオフミーティングのフォロー、④アドバイザー委員と PJ との意見交換会のフォロー（11 月～12 月、3 月）である。これらの活動により、研究者の研究関心と行政府の政策課題との連結を促進した。
- ・センター専門職が GiST 教員を研究代表者とする共進化実現プロジェクトの実施に参画した。

(KPI の達成状況)

- ・共進化実現プログラムのプロジェクト件数：7 件 [計画：共進化実現プログラムの第3フェーズのプロジェクト件数：7 件]

## ③共進化

(活動の概要)

((1) の行政官研修の記載参照)

((2) の共進化実現プログラムの運営の記載参照)

- ・行政官と研究者を中心とする議論の場として、文部科学省内研修と連携し SciREX 事業及び関係者を文部科学省内に紹介・周知するブラウンバッグセミナーをランチタイムに 5 回（5 月 18 日、7 月 27 日、9 月 14 日、11 月 16 日、1 月 25 日）開催し、行政官の政策ニーズの把握などを行った。
- ・共進化方法論に関する調査研究を委託調査も活用しつつ実施し、その進捗状況等を運営委員会（12 月 9 日、3 月 13 日）等で説明した。具体的には、①文部科学省・内閣府で進めている地域中核・特色ある大学事業／パッケージに対する EBPM の実施を目指して、拠点及び拠点外の研究者を含む研究会を定期的に開催して検討を行った。研究会・打合会を週 1 回程度の頻度で開催し、その検討内容を踏まえて、以下の論文（招待論文）を発表した。
  - ・ 林隆之「大学改革政策の EBPM：改革促進事業の効果をいかに分析するか」『研究 技術 計画』2024 年 38 巻 4 号 p. 420-432。
- ・②欧州等の海外における科学技術イノベーション政策の政策立案への、大学等の研究成果の活用を促進する体制について調査を行った。その内容は、後述の SciREX セミナー、

研究・イノベーション学会、日本評価学会等で口頭発表するとともに、文部科学省と4回の勉強会を開催した。

- ・③科学技術イノベーション政策の研究と政策立案に必要なデータインフラに関して調査を行った。既存の行政の委託調査データの活用方策や、AI等による政策形成支援の可能性について研究会を3回開催した。
- ・過去に行った行政官と研究者が政策研究課題を共創的に設定していく方法論の開発について、以下の論文（招待論文）を発表した。
  - ・吉澤剛・田原敬一郎・安藤二香 1「共進化方法論に関する調査研究について、及び「科学技術イノベーション政策における《適切な問い》の設定に向けて」『研究 技術 計画』2024年38巻4号 p.445-459。
- ・共進化方法論の検討の枠組みで、拠点ワーキンググループを設置し同WGにおいて事業終了後のあり方について検討を進めた。現行の運営委員会のみでは各拠点とのコミュニケーションが十分とは言えないことから、各拠点の計画なども考慮しつつ、SciREX事業終了後の方向性や活動・取組の在り方について検討する拠点WGを設置した。構成は、各拠点から2～3名を登録、事務局はSciREXセンターが務めている。第1回WG（8月7日）では、特定のテーマに議題を絞らず、拠点間連携に係る「研究・基盤」、「人材育成」、「ネットワーキング」等を含む全体的な観点より議論した。また、適宜、SciREXセンターで共進化方法論の枠組みで調査している、本事業にとって参考になりそうな海外事例についての調査結果概要を共有しつつ、検討を進めた。第2回WG（10月20日）では、教育関係の拠点間連携、サマーキャンプ関係、行政官研修、コアコンテンツについて議論した。第3回WG（1月22日）はアラムナイ組織、フォローアップ調査、サマーキャンプ、共同利用・共同研究拠点等について議論した。

（KPIの達成状況）

（再掲分は（1）（2）の記載参照）

- ・共進化方法論の調査の進捗状況を取りまとめ、運営委員会（5月19日、12月11日）等で報告した。また、学会誌の論文として成果を取りまとめ公表した。[計画：共進化方法論の報告書のとりまとめ]

#### ④ネットワーキング

（活動の概要）

- ・文部科学省及びSciREX事業を実施する各拠点・関係機関の実務責任者からなり各拠点・関係機関の取組や役割分担の検討・調整、事業全体についての情報共有等を行う運営委員会を文部科学省とともに計3回（5月19日、12月11日、3月13日）開催した。
- ・各拠点の協力を得て、政策研究大学院大学において対面形式により、9月8日（金）～9月10日（日）に各拠点及び拠点外の学生並びに拠点の教員等が参加するサマーキャンプ

を実施した。本学が幹事校、東京大学 (STIG)が共同幹事校となり、昨年度に引き続き、人材育成プログラムの受講生・サマーキャンプ修了生の有志からなる実行委員会を設置、実行委員が企画し運営の一部を担う形式で実施した。また今年度は海外大学の教員の参加に加え、新たに学生が多様な政策立案関係団体に触れる機会としての「相談会」を実施した。同時に拠点等の教員・研究者や行政官が参加した教職員セッションを開催し、近年の科学技術イノベーション政策の潮流と今後の展望や、将来の行政官等に必要な知識・スキル・マインドセットについて検討した。

- ・ **SciREX** 事業関連のプロジェクトの成果や進捗報告を題材に、政策担当者、研究者及び関係者が率直な議論を行える場である **SciREX** セミナーをウェビナー形式で 4 回 (5 月 22 日、10 月 10 日、12 月 7 日、1 月 11 日) 開催した。
- ・ **RISTEX** プログラムサロンに参加し、プロジェクト実施者やアドバイザーとの交流や状況把握と行うとともに、**RISTEX** プロジェクトを **SciREX** セミナーで取り上げ広報に協力した。
- ・ 政策リエゾン制度を維持し、サマーキャンプや行政官研修の講師、コアコンテンツのレビュー、共進化実現プロジェクトの推進、セミナーの企画等でリエゾンを活用した。
- ・ **SciREX** 事業の活動や成果に関する情報をウェブサイト、広報媒体 **SciREX Quarterly**(4 号発行)を通じて発信した。

(KPI の達成状況)

- ・ 運営委員会の開催回数：3 回 (5 月 19 日、12 月 11 日、3 月 13 日) [計画：運営委員会の開催回数：3 回]
- ・ サマーキャンプへの参加学生数：67 名 (加えて実行委員 5 名参加) [計画：50 名以上]
- ・ **SciREX** セミナーの開催回数：4 回 [計画：4 回程度]
- ・ 政策リエゾンの委嘱総数：33 名 (年度末の委嘱数) [計画：30 名程度]

#### ⑤その他特記事項

特になし。

## 2. 事業終了を見据えた計画に対する進捗状況

事業終了後を見据えた計画に対する対応として、以下の活動を行った。

- ①共進化方法論の調査の進捗状況をとりとまとめ、運営委員会等で報告した。
- ②共進化方法論の検討の枠組みで、拠点ワーキンググループを設置し同 WG において事業終了後のあり方について検討を進めた。現行の運営委員会のみでは各拠点とのコミュニケーションが十分とは言えないことから、各拠点の計画なども考慮しつつ、SciREX 事業終了後の方向性や活動・取組の在り方について検討する拠点 WG を設置した。構成は、各拠点から 2～3 名を登録、事務局は SciREX センターが務めている。第 1 回 WG (8 月 7 日) では、特定のテーマに議題を絞らず、拠点間連携に係る「研究・基盤」、「人材育成」、「ネットワーキング」等を含む全体的な観点より議論した。また、適宜、SciREX センターで共進化方法論の枠組みで調査している、本事業にとって参考になりそうな海外事例についての調査結果概要を共有しつつ、検討を進めた。第 2 回 WG (10 月 20 日) では、教育関係の拠点間連携、サマーキャンプ関係、行政官研修、コアコンテンツについて議論した。第 3 回 WG (1 月 22 日) はアラムナイ組織、フォローアップ調査、サマーキャンプ、共同利用・共同研究拠点等について議論した。(1. ③の一部再掲)
- ③成果のアーカイブ化の円滑な実施等を念頭に、SciREX ポータルサイトやコアコンテンツサイトについて、より管理運営が容易なサーバへ前年度に移行した。SciREX ポータルサイトでは SciREX セミナーの開催実績を一覧できるページを作成・公開するなど、アーカイブ化を継続的に実施している。

### 3. 中期計画の見直しのポイント

令和 6-7 年度をまとめた計画となっていたものを令和 6 年度及び令和 7 年度それぞれの年度計画として書き分けた。フォローアップ調査は令和 6 年度の実施、オープンフォーラムは令和 7 年度の実施とした。また、共進化プログラムの第 3 フェーズの令和 5 年度開始を踏まえ、同プログラムに関する計画の記述を実態に合わせて修正した。